

ビッグデータ(ETC2.0データ)を活用した生活道路対策 ＜緑区中山町地区＞の取り組み

○地域が抱えていた課題

中山町地区では、周辺の幹線道路を避けて対象区間（ゾーン30区域内及び通学路）をスピードを出して通過する車両が多く、横断歩道部では歩行者が渡りにくい状況にあった。また、ETC2.0ビッグデータの分析結果からも速度超過等が確認されており、通勤・通学する方や地域の皆さまにとって危険な状況であり、早急に対応を講じる必要があった。



横断歩道部で歩行者が渡りづらい

○協議会設立から本施工までの流れ

平成30年度に地域住民と小学校、警察、国土交通省、横浜市等で構成される「交通安全対策協議会」を設立し、安全対策の検討をスタートした。

本対策施工前に仮設スムーズ横断歩道等の実証実験を行い、速度抑制効果を確認することができたため、対策内容について地域住民と意見交換を行い、本施工を実施した。

経緯



▼協議会メンバー

協議会メンバー
中山町自治会
中山小学校
緑警察署
横浜市緑土木事務所

オブザーバー

国土交通省 横浜国道事務所
学識経験者(埼玉大学 久保田教授)

事務局

横浜市道路局施設課

▼協議会の様子



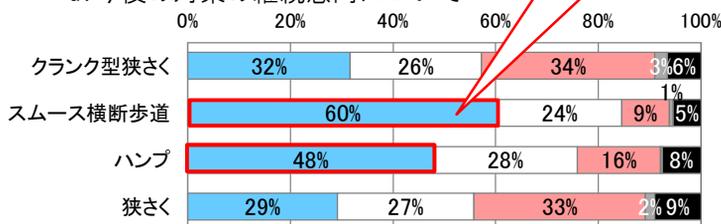
▼実証実験（仮設スムーズ横断歩道の設置） ：H30.11.20～H30.12.17



速度抑制効果を確認

▼実証実験（アンケート調査結果）

Q: 今後の対策の継続意向について



スムーズ横断歩道
・ハンブは今後も
対策すべき

○対策内容と対策実施による効果

国土交通省から提供頂いたETC2.0ビッグデータでみると、スムーズ横断歩道、ハンプ、狭さく、交差点のカラー舗装の設置により、車両の走行速度は、対策前と比べて低下しており、目標としていた30km/hを超える車両の割合についても、施工前に比べて低くなっている。

□対策内容

① スムーズ横断歩道の設置(2箇所)

横断歩道の位置に「ハンプ」を設置することにより、横断歩道が歩道の高さまで上がることで、車両の速度を低下させ、歩行者が安全に横断できるようにする。

② ハンプの設置(2箇所)

道路上に台形状の凸部を設置することにより、車の速度を低下させる。

③ 狭さくの設置(1箇所)

道路を狭くすることにより、すれ違わず、ゆずりあうことで車の速度を低下させる。

④ 交差点カラー舗装の設置(1箇所)

交差点内を赤く塗ることにより、ドライバーに注意喚起する。



ハンプ(2箇所)



狭さく



スムーズ横断歩道



交差点カラー舗装



スムーズ横断歩道

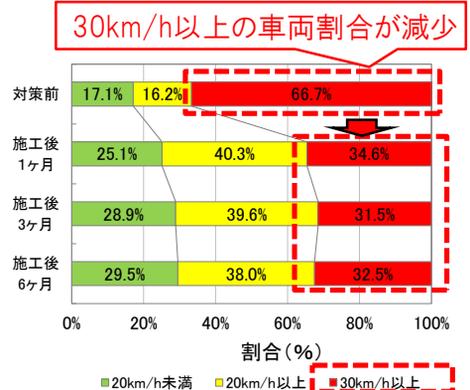
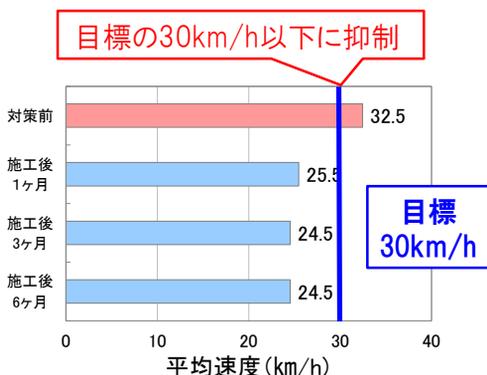


□対策実施による効果

- ・ハンプと狭さくの設置により、車両の走行速度は施工前と比べて、1ヶ月後、3ヶ月後、6ヶ月後と速度抑制の効果が持続しています。
- ・目標としていた30km/hを超える車両の割合についても、施工前に比べて、1ヶ月後、3ヶ月後、6ヶ月後と減少効果が続いています。

▼走行速度(対策区間)

▼走行速度の割合(対策区間)



分析データ：ETC2.0プローブデータ

・対策前：2017/11/22～12/16、施工後1ヶ月：2020/4/1～4/30、施工後3ヶ月：2020/6/1～6/30、施工後6ヶ月：2020/9/1～9/30